

天界 第一號(第一卷)

大正九年
十一月號



天文同好會創立の趣意

此頃は社會各方面の進歩が大變に眼覺ましくなりまして、政治上にも、産業上にも、藝術上にも、中々立派な發達が見ゆるやうですが、學術の方面にはまだ其の眞價値を認め之が發展を叫ぶ人が少ないやうに思ひます其の中でも特に天文學となると普及が頗る不充分で、殆んど常識とも云ふべき事柄が社會一般に徹底してゐないことを時々見出します、之れは吾々から見れば甚だ遺憾なことです、或る一部の人が誤解してゐるやうに、天文學は單に天體といふ狭い範圍の事柄を研究する物好き一點張のものではありません。一體、天の現象は何所の國でも皆大昔しから人の注意を惹いたもので、之れが曆法や測地上に用ゐられて、人世のために貢獻をしたばかりでなく、尙それ以上に(天文學の本質から言へば)もつと重大な役目を勤めて來たのです。といふのは天文學は昔から此の大自然を研究の對象とした

ものですから直接に哲學や宗教と交渉もし其の時代々々の人生觀宇宙觀を支配したもので、此の方面から言へば、天文學は人文史上の思想の基調に常々接觸を保つて來たものです、之れは昔も今も同じであるのに、今の世には多くの人の眼は卑近な社會上の事件にのみ注がれて、根本にまでは考へ及んで居ません、だから此際天文學の普及を圖るといふ事は單に星好きの人々を多くするといふことだけでなしに社會の思潮に一の指針を與へるといふ意味も持つことゝなります。

ところが實際吾々の知人朋友を見渡しますと少ないながらも天文學に興味を持つてゐる人々が若干在るのです、此ういふ人々が御互ひに今以上の便宜を得て其の天文學の了解を一層深めたならば其の結果は個人々々の利益だけでなくに又、社會への天文學のプロパガンダのための一大勢力を作ることが出来るやうにも思ひます。此の考へからこゝに同志を得て同好會を創立しようと思ふやうになりました。今の吾々の希望としてはなるべく熱心に天文學の普及と開發のため力めたいので、會は思ひきつてデモクラテックなものとし智識の交換や研究なども頗る自由にしたいものです。

天文學の目的や本質や意味は廣く且深いものではあります一方から言へばこれ程通俗なものはない

らうと思はれる程一般人向きのもので現に、誰でも天の星を見てチャームされない者はありますまい、それで、理窟も理窟ですが、此の星のチャームを亦決して忘たくありません、此の意味で吾々同好者は益々星に對する親しみを厚くし、之れによつて吾人の智識慾を本能的に追つて行きたいと思つてもゐます。單に肉眼で見ゆる星に慣れるのも宜しい、或は更に進んで實地觀測を試み、星の神秘の奥殿に親しく踏み込むのも宜からうと思ひます。天體觀測と一口に言へば何だか大變に仰々しいものゝやうに考へる人もありますが、實際は觀測として是非専門家以外にも實行の出来る、又實行して頂きたいものもあります、例へば變光星の觀測や、流星の見張りや、彗星の發見などは少しばかり心得があれば容易に成功し得るものです、こういふ事も同好者間には御すゝめして、直接學界のために貢獻したいものです。

前にも述べましたやうに天文學に興味のある人々は時々見當りますが、何と言つてもまだ書物や雜誌や其他學問上の普及機關が不完全でありますから今のまゝでは熱心はありながら不便を憾んでゐる人がありませう、此等の人々のために本會は適當な便利を圖りたいと思ひます。

更に一つ此の會が活動する理由があります、天文

の諸現象中には變動の頗る急激なものが澤山あります、どころで歐米の諸國には天文學者は澤山居ますから夜になつて熱心な觀測も出來ますが、彼等とても夜が過ぎて晝になれば觀測は不可能になります、それで例へば歐羅巴で成る星が見えなくなればアメリカでは見えて來るから連續的に觀測が出來ますが、次にアメリカで見えなくなつた後歐羅巴でまた見えない數時間の間は是非東洋の吾々が觀測を引き受けなければなりません。勿論東洋にも既に若干の天文臺があつて出來得るがぎり活動してはゐますが、そこへ又天氣といふものゝ妨げが起りますから安心は出來ないのです。こう考へて見ますと東洋方面にも是非歐羅巴や米國に匹敵する位の觀測が行はれて、世界全體の協同した連續觀測が實現せられるまで遭ぎ付けなければなりません。之れによつて天體の不斷の觀察が成就するわけです。天體觀測の總てとは言ひませんが、少くとも前に述べた變光星とか流星とか彗星とかは此の覺悟が必要です。

此會は多くの熱心家を會員中に發見してかゝる目的のために努力したいものです。此會の創立の趣意は之れです。此の意味に賛成して多くの同好者が御入會下さるやうに希望します。

大正九年九月一日 理學士 山本 一 清

古川 龍城 外 數 名